

ヨハネの福音書 第14章 6節

イエスは彼に言われた。「わたしは道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

弟子たちとの別れのことばのなかで放たれた主イエスの宣言である。数年間にわたりついてきた師が自分たちの目の前から消えることを聞いたなかでのことである。居なくなるのではなく、死別するのである。

弟子たちの耳には周囲からあらぬ噂が流れたでしょう。師を失った弟子たちの先行きが一層厳しくなり、弟子集団が消滅するであろうとの噂もあっただろう。

イエスに従って来た者たちの耳に様々な言葉が聞こえていたであろう。師亡き後、自分たちがどうなるのか分からない明日と向きあうだけである。聞こえる言葉は弟子たちのところを揺さぶります。不安な思いに襲われたであろう。町の言葉の何一つ現実となっていないにも関わらず、彼らはこのころの暴風の中に立っている如く動揺したであろう。師と死別するからである。

イエスが彼らに言われたのが、道、真理、いのちである。周囲の噂や、なんの根拠もなく語られている言葉とは異なる。弟子たちのこれからが始まる、わたしの言葉である。他の言葉を消す言葉。

2022年9月5日